

公益社団法人私立大学情報教育協会  
2019年度第2回情報教育研究委員会合同会議議事記録  
情報教育研究委員会、情報リテラシー・情報倫理分科会、分野別情報教育分科会

I. 日 時：令和元年6月27日（木） 17：00～19：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会会議室

III. 参加者：斎藤委員長、箕ノ本、大原、玉田主査、金子委員、角田委員、  
渡辺 (Skype)  
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. 到達目標Aの教育モデルについて

SDGs 食品ロスを例として、反転授業形式で2コマ対面授業のモデルが提示され、意見交換を行った。

- ・ 反転授業教材では、問題発見・解決のための枠組みとSDGsの説明と、食品ロスをなくすための方法を検討する情報収集までを解説しながら事前課題として提示している。
- ・ 1コマ目は、情報収集結果をグループで整理・発表し、解決策を洗い出し、その解決策実施に必要なデータ収集の事前課題を含め行わせる。2コマ目では、収集したデータでシミュレーションを行い、解決策の合理的判断からお互いの意見を尊重して最適解を合意形成の下に導出を目指して発表・レポートにまとめる。
- ・ SDGsが社会や自分の課題をなっていることへの理解を求めることが必要で、17の課題が相互に関連していることへの理解も必要ではないか。
- ・ 自分で要因を整理させることから、社会的な解決は自分ひとりではできないことへの理解と、そこから自分が先ずできることを考えさせてはどうか。
- ・ SDGsについて企業が進めている取り組みを調べさせてはどうか。

2. 到達目標Bの教育モデルについて

- ・ 到達点3を網羅する形で、ビデオ教材とワークシートでの学修としてはどうか。

3. 到達目標Cの教育モデルについて

- ・ 4つの到達点に対応させ4コマでの実施について章立てやキーワードが提示された。到達点で分けることにより、各大学の状況に応じて選択して実施する可能性が考えられるのではないか。
- ・ キーワードを理解させるまたは、説明するためには、その項目に適した例示などが必要になるのではないか。
- ・ 4コマは、それぞれ反転授業の形式を考えており、ビデオ教材は15分程度を考えている。
- ・ 社会における情報通信技術のところでは、サイバーセキュリティも含めてはどうか。また、法律・知財の話を追加してはどうか。統計・確率などの関連情報も必要ではないか。
- ・ 2・3コマ目は対面授業を行い、1・4コマ目はビデオ教材での実施とした授業モデルも考えられないか。
- ・ 授業シナリオの骨組みをもとに検討を進めてはどうか。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次年度は、7月26日に合同会議を開催し、授業シナリオを継続検討することになっている。